

仏教保育

10
OCTOBER

伝えよう 生命の尊さ ほとけの心

【意見】

P17 III 四つの基本的方向性

P24 ~ P25 (4) 紋づくりと活力ある「コミュニティ」の形成

P38 ~ P39 2~5 伝統・文化等に関する教育の推進

P43 基本施策4 幼児教育の充実 【現状と課題】の4番目、5番目

P89 基本施策21 豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実

右記諸項目を包括して、生命尊重の保育推進の仏教保育の観点から、また地域に根ざした幼保一体の現場から、ご意見申し上げます。

「第2期教育振興基本計画について(審議経過報告)第2部総論概要」にも示されているように、「我が国を取り巻く危機的状況」については、「少子高齢化の進展」や「非正規雇用の増大」等の「雇用環境の変容」に「震災」の教訓が大きく重なり、提起されている「四つの基本的方向性」の内でも特に、「4. 紋づくりと活力あるコミュニティーの形成」に着目せざるを得ません。

すなわち、「地域社会、家族の変容」と「豊かさの変容」の課題です。このテキストには経済成長と物質的な豊かさを求める、止まるところを知らない「欲望のエネルギー」への批判的な反省的な思いが込められているのだと理解されます。依然として加速

化される欲望の力に抗する、貪り(むさぼり)や痴(おろかさ)を克服する智恵が求められています。この度の巨大津波の猛威や原発の顕在化した危険に対しても、「自立・協働・創造」を今後の社会の方向性としてもたなければなりませんとの「総論」に共感するものです。

そこで「成果目標や基本施策」の「施策19」および「施策21」に着目しました。

最後に、東日本大震災は多くの教訓と課題を私たちに残しました。特に陸前高田市の「奇跡の一本松」は万人の心を大きく揺さぶっています。7万本の松の木でたった一本生き残った奇跡の一本松は、悲しみと苦しみのシンボルであり、不屈・復興の印であり、「ありがとう」「よく生きた」の祈りと感謝の「巨大モニュメント」として再建されようとしています。地域の人々にとっては勿論のこと、全国の老若男女の「祈りの場」としてあります。

政教分離の論も承知しておりますが、このような伝統文化、自然への畏敬の念、生死へのかかわりが、家庭での教育力の再生と学校教育の強化に結合すると確信致します。

以上

「第2期教育振興基本計画」への意見

公益社団法人 日本仏教保育協会 理事長 上村 映雄

4つの基本的方向性

1. 社会を生き抜く力の養成
(「多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働」)
2. 未来への飛躍を実現する人材の養成
(「変化や新たな価値を創造・主導し、社会の各分野を牽引していく人材」)
3. 学びのセーフティネットの構築
(「誰もがアクセスできる多様な学習機会を」)
4. 紋づくりと活力ある「コミュニティの形成」
(「社会が人を育み、人が社会をつくる好循環」)



第32回全国仏教保育栎木大会

平成24年8月2日／あさやホテル（日光市・鬼怒川）

[記念講演]

「みんなちがつて、みんない」

講師 乙武洋国さん
(ナチュラルスマイルジャパン取締役・作家)

『皆さん、こんばんは。今僕はちよと面喰つています。ホテル内での講演だと伺つていたので、こじんまりとした部屋だとばかり思つて、いたのに、こんな大きなホールで、こんなに大勢お集まり頂いて、有難うございます。精いっぱいお話をさせて頂きります。最後までよろしくお願ひします』。舞台の袖から電動椅子を操りながら登壇した乙武さんは、開口一番こう話され、目を細めながら暫く会場を見まわしていました。以下は要約です。

今、日本中がオリンピックで沸いています。体操の内村選手をはじめ、柔道、水泳、サッカーと、日本人の活躍は目ざましいですね。皆さんには、それぞれ注目していらっしゃる競技があると思います。

しようが、大部分の選手は経済的に厳しい環境の中で練習に励んでいるのです。

の「ロンドンオリンピックでも活躍できたら」とおられます。なでしこジャパンの澤穂希選手、あの方もそのお一人です。10年近く澤さんを取材させさせて頂きましたが、今も親しくさせて頂いています。ですから、オリンピックでの活躍に僕も一喜一憂しています。ところで、皆さんご存知ですか？ オリンピックの舞台に臨むには、たくさんお金がかかります。水泳の北島康介選手くらいのクラスになればCMや本の出版などの収入もありますから今は心配ないで

子どもの発想は
素晴らしい

ます。ところで、皆さんご存知ですか？ オリンピックの舞台に臨むのは、たくさんお金がかかります。本泳の北島康介選手くらいのクラスになればCMや本の出版などの収入もありますから今は心配ないでしょうが、大部分の選手は経済的に厳しい環境の中で練習に励んでいるのです。

忘れてしまって…。その背景にあつたのは、もう選手たちの歩みに思いをはせると、オリンピックの見方も変わってくるのではないでしようか。

「新しい先生ですよ」と子どもたちの前に現れると、僕の身体を見た子どもたちは皆びっくりします。でも、大人と違つて子どもは正直というか、無邪気といいますか、不思議に思つたことをストレートに聞いてきます。「先生、何で手がないの?」「足、どうしたの?」「どうやつ

す。子どもたちにもこんなふうにして書いて見せると「ふん、そうやで書くのかあ」と納得してくれます。

最初の1年間は担任を持つてはなかつたので、給食の時間には1年生から6年生までのどこのクラスで子どもたちと一緒に食べました。スプーンとフォークを使って給食を食べている僕の姿に、初めのうちは好奇の目で見られていきましたが、段々に子どもたちの心の壁も取り払われ、打ち解けてくれるようになりました。

ただ、どうしてもできないことがあります。果物の皮むきです。例えは「みかん」。給食にはよく「みかん」が出ます。でも、子どもたちが先を争つてむいてくれました。それから「牛乳」です。当時、牛乳はビンに入つていて、フタは紙でできていました。あのフタつて、爪のある人でもちつと取りにくいですよね。僕には至難

年生の男の子が門の脇にいた僕の所へ来て手をにぎり、「ねえ、先生の手って、秋になつたらどうなるの?」と聞かれたのです。これまで30年以上、いろんな質問をされきましたので大抵のことには動じないのですが、この問いには参りましたね。自分の腕の季節感を問われたのは初めてでしたから(笑い)。「うん、そうだねえ。実がなるよくなことはないと思うよ」と、苦しい返事をしましたが、これは忘れられない質問でした。

でも、上には上はあるものですね。実は僕、4歳と2歳の二人の息子がいるんです。上の子が幼稚園に入つたので、近くの児童館に子どもたちを連れていくことが多くなりました。そんなある時、女の子が「おじちゃん一緒にあそぼ」なんて声をかけてくれましてね。「いいよ、遊ぼう」と言つたら彼女、大量の粘土を

う晴れの舞台で、メダルをめざして戦っているのです。栄冠に輝いた選手たちに「感動ありがとう」という気持ちちはよく分かりますが、僕らは感動の「良いとこ取り」をしてるんじやないか、そう思うんですよね。4年間、いや5年、10年と練習に打ち込んできてやっと勝ち取った瞬間の成功を、僕らは「感動」という言葉だけを共有しているようだ。思ひうないです。この興奮が冷めること

「字を書くの?」、次々と疑問をぶつけてきます。

の業です。しかし、子どもたちが「先生の牛乳のフタ、私が取つてあげる」「きょうは僕がやるんだ」と、牛乳瓶を奪い合いすることもあります。子どもたちのこうした奪い合は、僕には嬉しい採め事でもありました。子どもって、こちらが心を開けば喜くように応えてくれます。

学校に赴任して以来、毎朝僕は登校てくる子どもたちを校門の



持つてきて僕の腕にその粘土を押し付けてくるんです。「何をするの?」と聞くと、「おじちゃんの手、作ってあげるの」。ファンタジーじゃないですか。子どもの発想って本当に素晴らしいと思いました。

こんなこともありました。あれは夏休みを控えた暑い日でした。数人の女の子がおしゃべりしている傍通りかかった時、一人の女の子が「先生、靴のサイズいくつ?」つて聞かれたのです。「先生は靴、履かないから」と言うと「あつ」という顔をしました。どうやら、上履きのサイズのことを話しあっていたらしいは忘れてくれていたのですから。

似たようなことは、時々あるんですね。愛媛の道後温泉の街を事務所の仲間たちとぶらついていた時、「足湯」を楽しんでいる人を見かけた仲間の一人が「乙武さん、ちよつと足湯にでも浸かっていきませんか」と言うのです。「お前ね、僕が足湯に浸かつたら半身浴になっちゃうよ」。仲間内でも、僕に手足がないことを忘れているみたいなんですね。

椅子を使っていることにも違和感がなくなるのでしょうか。靴のサイズを聞いた女の子も同じ感覚だったのでしょうか。

4月に赴任した時は『ずいぶん違う形をした変な人がやってきたのでしよう。

たな』と、おつかなびつくりの子たちも、毎日一緒に勉強したり給食を共にしたりしているうちに、いろいろなことを教えてくれる先生の人、そんな感覺で捉えてくれるようになつたのだと思います。

僕は36年間、こんな体で生きてきました。しかし、差別や偏見などを感じたことはほとんどありません。僕が鈍感な神経の持ち主だったのかも知れませんが、それ以上に周りの人たちに恵まれていたと思います。

確かに車椅子で道を通つていると、「なに、あれ?」と指をさされたり、「うわっ、気持ち悪い」と顔を背けられたりもしました。

皆さん、ちょっと考えてみてください。それって、障害者に対する偏見で指をさすのでしょうか。差別からくる感情が「気持ち悪い」という言葉になるのでしょうか。もちろん、そうかも知れません。そういうかも知れません。でも、いきなり目の前に普通でない形の人間が現れたら、びっくりしたり、気持ち悪がるのは当然だと思います。

僕が教師に力き立てられた理由

今から9年前の2003年、長崎で起きた事件です。当時4歳だった機があつたのです。

た男の子が家族と一緒にショッピングセンターに行つた時、両親がほんの一瞬目を離したときに何者かに連れ去られ、少し離れた立体駐車場の屋上で衣服を剥がされ、ハサミで体を傷つけられて突き落とされました。その翌年、やはり長崎で小学校6年生の女の子がクラスメイトをカッターナイフで切り殺すという事件が起つりました。マスコミは「凶悪犯罪の低年齢化か」とセンセーショナルに報道しました。

被害者は実に可哀相です。そして、ご遺族の無念もよく分かります。本当にお氣の毒です。もとより加害者は許されるものではありませんが、しかし、僕の感想はちょっと違つたのです。事件を起こしてしまつた少年・少女にも、そうしないではいられない何かの事情があったハズ。「今、ぼくは苦しいんだよ」「私、このままだと壊れちゃうよ。誰か助けて!」。辛く、苦しい状況に追いつめられた彼らは、きっとこんな『SOS』を出していました。それでもいません。誰かが気付いて軌道修正してあげていれば……。そんな思いがしたのです。

僕は見ての通り、生まれながらの「五体不満足」。世間から憐れみや同情されながらも、好奇の目で見られるのも当たり前だつたと思います。でも、両親、学校の先生、近所の教員、どなたか、そこには僕の中で大きな転機があつたのです。

おじちゃん、おばちゃんたち、周囲の人々はみんな温かい目で見守つてくれました。時には厳しく、そしてできないことは、子どもたちが補い助けてくれた。助けたり助けられたり……、「助け合う」つて素晴らしいことだと思います。長崎の悲しみで、今度は僕が大人の立場で次の世代の子どもたちに恩返し、とうとう『恩送り』というつもりで、謝しながら大人になりました。だから、今度は僕が大人の立場で次の

生活を送りました。

先ほどお話のように3年間、教員役立てていただけることはないだろうか。そんな思いから29歳の時にもう一度大学に学んで教員免許を取り、度大学に学んで教員免許を取り、役立てていただけることはないだろうか。そんな思いから29歳の時にもう一度大学に学んで教員免許を取り、役立てていただけることはないだろうか。それは、きょうの僕の講演テーマです。この言葉は皆さんもよく存知の、金子みすゞさんが書かれた『私と小鳥と鈴と』という詩の一節です。『私が両手を広げても、お空はちゃんと飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地べたを速くは走れない。私が体をゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のようないふる音は知らないよ』このように、たくさんの唄は知らないよ』このように、みすゞさんはできないことを並べ、最後に『鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがつて、みんないい』と結んでいます。素晴らしい詩ですよね。

「ジグソーパズル」のクラス作りを目指す

僕は、どんなクラス作りを心掛けってきたか。それは「ジグソーパズル」のようなクラスです。皆さんも知つての通り、ジグソーパズルのピースはどれ一つとして同じ形のものはありません。出っ張つたり引っ込んだり、実に歪な形ばかりです。それを組み合わせていつて美しい絵や写真が出来上がりります。完璧な形をした子どもなんていません。デコボコしていく当たり前ののです。そして、誰にも得意・不得意があります。

「それできるよ、僕」「私、これって苦手なんだ」と話し合いながら、苦手なことは得意な子に補つてもらい、支え合つて目標に進んでいく……そんなクラスを目指しました。

ないことはたくさんあるじゃないですか。両手・両足のない僕がどうしてもできないことは、子どもたちが補い助けてくれた。助けたり助けられたり……、「助け合う」つて素晴らしいことだと思います。長崎の悲しみで、少しうまく、少しでもそんな気持ちになつて頂けたら嬉しく思います。

そうなんです。一人ひとり違つて、誰にも得意・不得意があります。いるからこそ、人間つて素晴らしいのではないでしようか。できることができないこと、お互いに認め合つて、それを補つたり、支え合つたりすればいい。そして、許し合えればいい。僕の話で、少しでもそんな気持ちになつて頂けたら嬉しく思います。

教員だって、保護者だって、でき



印度山日本寺40周年・菩提樹学園35周年・光明施療院30周年

「インド6大仏跡参拝の旅」へのご案内

平成25年(2013)1月21日(月)~1月29日(火)9日間

平成25年には印度山日本寺40周年、菩提樹学園35周年、光明施療院30周年と、それぞれ節目の年を迎えます。

1月23日は、それぞれが迎える周年の記念参拝を執り行います。お釈迦様お悟りの地ブッダガヤにおいて、長年にわたって行われ親しまれてきた幼児教育・福祉事業・地域医療等の活動現場を視察するとともに、お釈迦様の足跡を訪れる旅です。気候も良くゆったりとした旅程ですので、安心して楽しめます。皆さまのご参加をお待ちしています。

月日曜	都 市 名	交 通 機 関	時 刻	日 程	食 事
1 1月 21日 (月)	各地空港発 バンコク着	タイ国際航空 専用バス	午 前 午 後	成田・関空・中部・福岡空港発、タイ国際航空にてバンコクへ 専用バスにてホテルへ ホテル内レストランにて夕食【結団式】 ※添乗員は成田・関空・中部・福岡空港のいざれかより同行し、バンコクにて合流いたします。 (バンコク泊)	朝 × 昼 ○ 機 夕) ○
2 1月 22日 (火)	バンコク バンコク発 ガ ヤ 着 ブッダガヤ	専 用 バ ス TG-327 専 用 バ ス	午 前 12:10 14:00 午 後	ホテルにて朝食 専用バスにて空港へ タイ国際航空にてガヤへ 着後、専用バスにてブッダガヤへ 成道の地ブッダガヤ参拝「大塔、金剛宝座、菩提樹」 ホテルにて夕食 (ブッダガヤ泊)	朝 ○ 昼 ○ 機 夕) ○
3 1月 23日 (水)	ブッダガヤ	専 用 バ ス	終 日	ホテルにて朝食 印度山日本寺に於いて記念参拝 ブッダガヤ参拝「尼蓮禪河、スジャータ村」 ホテルにて昼食 ホテルにて夕食 (ブッダガヤ泊)	朝 ○ 昼 ○ 機 夕) ○
4 1月 24日 (木)	ブッダガヤ ラジギール ナーランダ ヴァイシャリ	専 用 バ ス	午 前 午 後	ホテルにて朝食 専用バスにてラジギールへ かつての王舍城ラジギール参拝「靈鷲山、竹林精舎、ビンビサーラ王の牢獄跡」 ホテルにて日本食の昼食 玄奘も学んだ「ナーランダ仏教大学跡」見学 専用車にてヴァイシャリへ ホテルにて夕食 (ヴァイシャリ泊)	朝 ○ 昼 ○ 機 夕) ○
5 1月 25日 (金)	ヴァイシャリ ケッサリア クシナガラ	専 用 バ ス	朝 午 前 午 後	ホテルにて朝食 ヴァイシャリ参拝「仏塔跡、アショカ王の石柱」 専用バスにてケッサリアへ お弁当の昼食 ケッサリア大塔参拝 専用バスにてクシナガラへ 途中、「チュンダの村」参拝 ホテルにて夕食 (クシナガラ泊)	朝 ○ 昼 ○ 弁 夕) ○
6 1月 26日 (土)	クシナガラ ルンビニ	専 用 バ ス	朝 午 前 午 後	ホテルにて朝食 クシナガラ参拝「涅槃堂、荼毘塚など」 専用バスにてルンビニへ ホテルにて昼食 カピラ城跡ティラウラコット参拝 ホテルにて夕食 (ルンビニ泊)	朝 ○ 昼 ○ 機 夕) ○
7 1月 27日 (日)	ルンビニ ベナレス	専 用 バ ス	朝 終 日	ホテルにて朝食 ルンビニ園参拝 専用バスにてベナレスへ 途中、お弁当の昼食 ホテルにて夕食 (ベナレス泊)	朝 ○ 昼 ○ 弁 夕) ○
8 1月 28日 (月)	ベナレス サルナート ベナレス発 バンコク着 バンコク発	専 用 バ ス TG-328 タイ国際航空	早 朝 午 前 16:30 21:15 深 夜	ガンジス河にてヒンドゥー教徒沐浴風景見学 ホテルにて朝食 専用バスにてサルナートへ 積尊初転法輪の地サルナート参拝「迎仏塔、ダメーク塔、考古学博物館、ムルガンティクティビハーラ」 空港のレストランにて昼食 タイ国際航空でバンコクへ バンコクにて乗り継ぎ タイ国際航空にて帰国の途へ (機中泊)	朝 ○ 昼 ○ 機 夕) ○
9 1月 29日 (火)	各地空港着		朝	成田・関空・中部・福岡空港到着。 入国手続き後、解散。	朝 機 機 夕) ×

※上記の日程は、交通事情等により変更する場合があります。



各宗派 夏期保育研修会・講習会 大会報告

۴۷۰

阿弥陀堂での開会式後、本願寺聞法会館に会場を移し、基

調講演。講師は久留米筑水高校で「いのちの教育」を進められ

た、高尾忠男氏。ニワトリをひよこから育て、最後は調理して食

べる、その中で「いのち」について子どもたちと一緒に格闘した経

験をお話いただいた。その後7名から8名の班に分かれ、班別討

議では今後、行なうべき問題に關する意見交換を行いました。それぞれの討

語でなく悟りしていることとして「いのち」について、保護者や職場の「へき用言葉」について、二、三

場の「人間関係」について、気になる子について、そして食育などについて班員からや、指導の先生より意見やアドバイスをもらいい解決していきました。

二日目には、朝のお参りの後、

本願寺書院や飛雲閣の拝観、

現別語の統音かと斧分
転換を図りながら、班別討議を

ひきしり行いました。その場には班内も打ち解け、活発な討議が

繰り広げられました。

す。各班の討議を発表できるようまとめ、全体の場で報告します。指導員より共通のコメント

トなどをいただきました。

この講座は毎年行われていますが、指導員として参加している私にとっては、いつも新鮮な

くるのです。

大変暑い京都で本山の中で、みんなで汗をかきながら話し合う、そんな研修会でした。

くるのです。

大変暑い京都で本山の中で、みんなで汗をかきながら話し合

大変暑い京都で本山の中で、みんなで汗をかきながら話しあう、そんな研修会でした。

はなまつり、成道会、涅槃会などの
仏教行事を、かわいいイラストで
ファンタジックに表現しています。



出席カード(仮数版)2012年度版

税込390円(本体価格372円)
出席シール(仮数画)2012年度版



日本佛教保育協会編集による出席カードです。
佛教行事を楽しい絵柄で構成しています。



化保
日蓮宗保育連盟主催、第58回保育研修長崎大会は「伝えようみほとけの心を闇から家庭に」の研修テーマのもとに、7月28日、29日の二日間、長崎県佐世保市ハウステンボスに隣接

【日蓮宗】

「第58回日蓮宗保育研修長崎大会」を終えて

日蓮宗保育連盟事務局長(栃木)
荒居 養雄



先生による献灯・献華、参加者による宗歌「立ち渡る」讃仏歌「さざぐみあかし」「蓮の花」の齐唱、法味言上と続きました。主催者濱田文護理事長挨拶後、各聖より祝辞を、地元長崎県妙宣寺保育園長小佐々恵宏先生から歓迎のあいさつを頂きました。その後永年勤続(30年8名、20年4名、10年14名)の表

おいて、地元、妙宣寺保育園の先生による献灯・献華、参加者による宗歌「立ち渡る」讃仏歌「さざぐみあかし」「蓮の花」の齐唱、法味言上と続きました。主催者濱田文護理事長挨拶後、各聖より祝辞を、地元長崎県妙宣寺保育園長小佐々恵宏先生から歓迎のあいさつを頂きました。その後永年勤続(30年8名、20年4名、10年14名)の表

した「ホテルオークラJRハウスデンボス」を会場に開催されました。今回も日本全国から、連盟加盟の幼稚園、保育園、大学等より約231名の設置者、園長、教諭、保育士、職員等が参加し盛大に行われました。

大会一日目は、まず開会式に

おいて、地元、妙宣寺保育園の先生による献灯・献華、参加者による宗歌「立ち渡る」讃仏歌「さざぐみあかし」「蓮の花」の齐唱、法味言上と続きました。主催者濱田文護理事長挨拶後、各聖より祝辞を、地元長崎県妙宣寺保育園長小佐々恵宏先生から歓迎のあいさつを頂きました。その後永年勤続(30年8名、20年4名、10年14名)の表

トと「みそ汁の日」をテーマに具体的な映像やパワーポイントを駆使して食に対する情熱あふれるお話をうがいました。

続いて、立川流立川志遊師匠による「独り語り日蓮聖人御伝記(由比ガ浜)」の落語を拝聴し

水上勉さんの代表的な作品の一として知られる「釈迦内樞唄」は、いくつかの劇団が上演しています。

この作品は、秋田県の釈迦内村で代々火葬場の仕事をしている家族と、その仕事を引き継ぐ娘の物語です。

時代は昭和20年頃。「身に降りかかる不条理を受け止めて生きようとすると、人は限りなく優しく豊かになる」とのようない状況に置かれてもなお人を信じ、正しく生きようと願う「人間としての生き方を問いつける」作品です。

水上 勉 作 「釈迦内樞唄」 (劇団「希望舞台」が上演)を 推薦します。



ました。日頃落語を聞く機会があまりない参加者にとって、落語を通して日蓮聖人の生涯を興味深く聞くことができ、日蓮聖人への理解をさらに深めることができました。落語の話術等、保育の現場にて生かせる良い研修となりました。

夕食を兼ねた懇親会は、多くの来賓の方とともに情報交換の場として有意義な時間を過ごせました。特に長崎ならではの蛇踊りや、ジャズバンド・ステイ

ルパンの生演奏等で大いに盛り上がりました。

大会二日目は、長崎県布教師会長岩永泰賢上人から「ごどもの声は魔を払う: 仏と神と人を結ぶ」の演題による晨朝法話を拝聴しました。保育の現場で人とのかかわる際に必要な多くのヒントをいただきました。

次に宮崎県宮崎たちばな保育園主任首藤郁子先生により「保育者の資質向上を図る」園内研修の取り組みから見えてくる

第56回を数える佛教保育大
学講座が浄土真宗本願寺派が
事務局となり開催された。
京都市、西本願寺で開講式

【真宗大谷派】

第56回 佛教保育大学講座

銀の鈴幼稚園(東京)
園長 五島 满

が行われ、浄土真宗本願寺派、
真宗大谷派、興正寺派、仏光
寺派の保育士、幼稚園教諭が
133名参加された。

記念講演は鷲田清一氏（哲
学者・大谷大学教授）。哲
「保育に大切なことは、生き
ている楽しさ、自己肯定感、
とを、子どもの心に植え付け
ていくことが保育の仕事では
ないか。」と語られた。

安心感。絶対に子どもを見捨
てないのが親であるというこ
とを、子どもの心に植え付け
ていくことが保育の仕事では
ないか。」と語られた。

また四日間を通じて講義を
頂いた、長倉伯博氏（浄土真
宗本願寺派・善福寺住職 滋賀
医科大学非常勤講師）は、医
療の現場、特に終末看護のタ
ミナルケアの現場から提起さ
れた「いのち」の問題を語ら

館洛兆では講座スタッフが担
当となり、13班、全7回の班
別討議を通じて、自らの保育
を見つめ直しながら、子ども
に向かい合う自らの姿勢をじつ
くりと話し合った。

会場となつた龍谷大学・旅
館洛兆では講座スタッフが担
当となり、13班、全7回の班
別討議を通じて、自らの保育
を見つめ直しながら、子ども
に向かい合う自らの姿勢をじつ
くりと話し合つた。

最終日に受講証が参加者全
員に手渡されて閉講した。

なお8月には（公社）大谷
保育協会主催、全4回にわた
る保育心理士養成講座、保育
心理士取得講座が北海道、東
京、名古屋、京都を会場に開
催された。

もの」「保育に役立つ遊び
紹介と実技」と題して実技研
修が行われました。園内研修
の大切さを学び、折り紙を使つ
た楽しい実技の時間となりま
した。なお設置者・園長先生
方はこの時間と並行して別会
議室での総会に出席し、議案
はすべて承認されました。

閉会式では研修生代表謝辞、
正幼稚園草野寛行先生の挨拶
により来年の再開を期し、長
崎大会は無事終了しました。



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

「古屋賞」受賞のチャイルド社が 感謝と喜びの声届く！

第32回全国佛教保育栃木大会で「古屋賞」を受賞された株式会社チャイルド社から、過日お礼の手紙が本部事務局に寄せられました。

「古屋賞」は、全国の支部または団体・個人による佛教保育に関する実践的な研究活動および運営に当たつて成果を挙げていると認められる者を顕彰するもので、「持田賞」とともに全国佛教保育大会の席において、表彰状と助成金を贈呈しています。

今大会では、永年にわたる佛教保育教材の製作・普及に貢献された功労により、株式会社チャイルド社が表彰されました。チャイルド社からは、「これからも幼児教育界におけるあらゆるニーズに応える」とを通して、幼児教育および幼児文化の発展・向上に貢献します」という決意に添えて、「頂いた助成金で、高性能なデジタルカメラを購入しました」と綴られていました。





事務局日誌

9/12 9/6

「仏カリ」「仏教保育」編集会議
事務局会議
「ほとけの子」編集会議



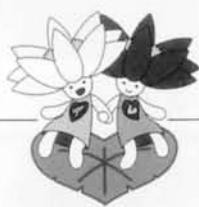
近年、大学生になつても子離れしない親が順に増えたという。大学受験のための情報集めから進路の決定、果ては就活に至るまで東奔西走する親が急増し始めたというのだ。こうした親を「ヘリコブター・ペアレント」と呼ぶそうだ。頭上を旋回しながらわが子を見守り、何かあると直ぐに降りてきて指示をしたり、助け舟を出すという揶揄である。アメリカから入ってきた言葉だが、日本の大学生の親に多いらしい。特に、母親の活動は目覚ましいようである。

「母性の強さ」と括るには、ちと行き過ぎのようにも思えるのだが如何なものか。

「かじられて スネ4本が 行く足湯」というオリックスのマネー川柳が浮かび、思いが重なった。疲れたふた親が「棒になった足」を並べて湯に浸る図は、滑稽にも思えるのだが、聞いてみたいものである。

「ヘリコブター・ペアレント」 増える!

公益社団法人 日本佛教保育協会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.butto.com/>
電話 03(3431)7475・FAX 03(3431)1519
発行人 上村映雄 編集人 高山久照
毎月1回1日発行(1部315円)



佛教保育綱領

慈悲不殺 生命尊重の保育を行なおう
仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

■子育て関連の3法が施行される。新幼保連携認定ことも園は、国、地方公共団体、学校法人または社会福祉法人に限るらしい。現在、私立園を考えると、日本の幼児教育・保育を支えてきたのは、学校法人、社会福祉法人立の園だけではないのは皆さんもご存知だろう。仏教保育が行われている私立園は学校法人、社会福祉法人だけではないのも皆さんはご存知であろう。一体施設、一元化という流ればかりクローズアップされているが、戦後の保育の二元行政の中で真摯に仏の教えを児童に伝えてきたのは、法人の形が時代の流れでどう変わろうとも、私たち仏教園であったわけだ。■今回の新幼保連携認定こども園には宗教法人立からの参入はできることになった。この重要決定を私たちはどう捉え、対応していくのか、加盟園の皆さんのが声を今こそカタチにしたい。

(福井)

編集後記

● 電話 113-0021
ファックス 03-3451-6421
http://www.suzukisyuppan.co.jp/
すずき出版 鈴木出版株式会社

ポップアップ絵本 おしゃかさま

¥21,000(税抜¥20,000)

サイズ:W31×D5×H43cm

重量約2kg

化粧箱(W33×D5.5×H45.5cm)入り

10ページ(見開き5画面)

(社)日本佛教保育協会/監修

諸橋精光/作

さくらいひろし/PAPER ENGINEERING

脚本ガイド付き



★お誕生からお涅槃までのお釈迦さまのご生涯をつづった大型の立体絵本です。ポップアップならではの精密かつダイナミックな仕掛けをふんだんに盛り込みました。布教活動や仏教保育の現場でご活用いただけます。

誰でも一度は読んでおきたい…

名作児童文学紙芝居

走れメロス

泣いた赤おに

手ぶくろを買いに

(価格は税込)

20場面 ¥3,675

16場面 ¥2,940

16場面 ¥2,940